



3月27日、程十髮藝術館（写真上の左の建物）前広場で開幕式が行われた。左上の写真は、今回の展示会のために特別に制作した、水戸徳川家に伝わる朱舜水の肖像画の複製。また、会場には柳川の観光をPRするパネルコーナーも設けられた。（写真左下）

亡くなるまで省菴と手紙のやりとりを続け、多くの手紙や書物が安東家に残され、現在、柳川古文書館に寄贈されています。松江区では、朱舜水は日本の文化に影響を与えた人物として知られ、区内の方塔公園内に記念堂が設けられています。しかし史料は残っておらず、松江区が展覧会を企画するにあたり、柳川古文書館に史料の借用を打診。市としても日中友好に役立ち、朱舜水を通じて安東省菴や柳川のことを、松江区の人たちに知ってもらえるならと、史料の貸し出しに応じたものです。開幕式には、松江区が金子市長や古賀市議会議長、省菴の子孫の安東守仁さんから7人を招待。金子市長は「350年以上前に、日中のすばらしい文化交流があったことを紹介できたことは両国にとって有意義なこと」と開幕式であいさつをしました。書画展に合わせて篆刻家の師村妙石さんのプロデュースで、柳川と松江区それぞれ12人の書道家による日中書法作品展も開催。朱舜水と省菴が育んだ友情をもとにした、新たな文化交流が芽吹きました。



開幕式の前日の3月26日、金子市長らが松江区を表敬訪問した。楊崢副区長が一行を迎え、松江区と本市の友好と繁栄を願う書が贈られ（中）、本市からは柳川まりを贈った（左）。



朱舜水と安東省菴の友情が日中友好の懸け橋に

柳川ゆかりの史料を朱舜水の故郷で展示

市は外務省が認める日中国交正常化40周年記念事業の一つとして、上海市松江区と共催して、同区の程十髮藝術館で3月27日から4月26日まで「明・朱舜水書信展」を開催しています。展覧会には、市から朱舜水に関係のある史料18件65点を出展。朱舜水が明から日本に持ち込み、柳川藩の儒学者、安東省菴に託した県立伝習館高校所蔵の孔子像も、約350年振りに故郷で展示されました。

朱舜水（1600～1682）は明代末の儒学者で、当時、中国全土を制圧しつつあった清に抵抗して、明の再興を目指し活動していた人物。若いころに、活動の拠点にしていたのが上海市松江区です。1659年、明の再興をあきらめた朱舜水は日本に亡命。亡命後の長崎での生活を支えたのが安東省菴（1622～1701）です。省菴は朱舜水を師と仰ぎ、朱舜水も自分より20歳以上も若い省菴を、親友として親交を深めました。その後、朱舜水は徳川光圀に招かれ江戸に上り、水戸藩の政治や学問に大きな影響を与えます。朱舜水は



開幕式では、金子市長と古賀市議会議長を始め、日中の関係者がテープカットを行った（右上）。展示会場には開場と同時にたくさんの方が訪れ、展示資料に見入っていた（左上、右下）。開幕式の後、会場を移して、中国、台湾、日本の6人の研究者が、朱舜水に関する講演会を行った。日本からは柳川古文書館の田淵義樹副館長が、朱舜水と省菴の交流について講演した。

